



You Ain't Heard Nothin' Yet ! ヤー!

4月は『木通(あけび)』

Vol.35 2022.4.10 えんじょい工房・『YAH!』編集室

じわりと寄せくる苦い波

余裕を見せて苦難の民に救いの手を差し伸ばしたもののかえって嫌われてみたり、付き合いたとというの当の本人にしても相手方にしても実に厄介な代物で扱いと反応に困り果てるのがオチだ。持てる者は相も変わらずおためごかしの“思いやり” たっぷりのご提案でお茶を濁し、それに惑わされ、目を瞑り口を噤むある種の階層の者たちの軽さはいかばかりか、どうしたものか：決して矢面に立たず、場合によっては卑屈ささえも厭わない、しかしその影で得たものは、蠢くものは、百年の平穩のなんと虚しいことか、そして脆いことか、今、覚悟せねばならない時なのかもしれない。ヘラヘラとわらって「自分には関係ない」「そんなつもりではない」「などと言っても即座に押しつぶされてしまうかもしれない、そんな時代はごめんだが、現実の足音が聞こえる：ような気配もある。とにかくできることは、じっと見つめることだと思ふ、事と次第では、行動よりも値打ちのあることではないだろうか・・・

富岡慕情

【こんな唄に出くわした②】

いわゆる“ご当地ソング”であるが、富岡という土地に特別な感慨はない。偶々この唄に出くわして、我がふるさと、想い出を振り返るに、申し訳ないが、地名とそれに直接つながる箇所を替えると、しっくりはまるのだ。“替え歌”にもならないが、個人的により一層“沁みる”ものになった。そして、こうなる・・・

作詞・作曲：荒木 悟
唄：三島 敏夫

幼馴染の つぶらな瞳
貫前(八幡)参りに
想いを込めた
君のうなじに ほつれ毛ゆれて
むせび泣くような
富岡(大洲)の灯り
ああ いとしあの娘は今いずこ
清き流れの 簪(臥龍)の淵に
姿うつして
泣いてた君よ
愛のともしび ほのかにともり
すすり泣くよな
富岡(大洲)の灯り
ああ いとしあの娘は今いずこ

木通(あけび)

まあ読めるけど、書くとなるとなかなか難しい漢字(花部門)の御三家が『薔薇(ばら)』、『躑躅(つつじ)』に『檸檬(れもん)』だとする、マイナーだけど、とにかく読めない“裏御三家”ともいうべきものが『木(ぼけ)瓜』、『忍冬(すいかずら)』、そしてこの『木通(あけび)』ではなからうかと勝手に思っている。

【こんな映画を観てきた】

『ベニー・グッドマン物語』
The Benny Goodman Story
-1955/米-
監督:ヴァレンタイン・デイヴィス

ベニー・グッドマン(スティーブ・アーレン)の楽団がステージで演奏している。客席で母親と恋人が並んで座っている。母親が「あの子は口下手で、もうプロポーズはしたの?」、それにこたえて恋人のアリス(ドナ・リード)が言う「今、していますよ」、いかにもアメリカ的なエンディングである。この類の作品はだいたい成功する。もともとのモデルが成功者なわけだから当然ではある。その代表が『グレン・ミラー物語』だろうか?!